

## 本事業の自走化計画

## ① 自走化の実現に向けた取組内容【2ページ以内】

芝浦工業大学では、スーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業採択当初から、事業補助金で賄いきれない大学のグローバル化に関する経費につき、理事会による「大学のグローバル化推進のために必要な案件については優先的に資源配分を行なう」という機関決定の下、大学の自己資金およびその他の外部資金を活用して、大学のグローバル化を推進してきた。その額は、既に SGU 事業補助金（2018 年度：51.1 百万円）を大きく上回っており、自走化に向けた体制・財務構造が出来上がっているといえる。実施体制についても、2015 年 10 月に設置した SGU 推進本部会議を中心とするグローバル化推進体制が十分機能しており、現時点で新たな体制の改変やプロジェクトチームなどを立ち上げる必要はないと考える。

今後も創立 100 周年を迎える 2027 年に向けて、学校法人を挙げてグローバル化を推進するという方針は確認されており、現在行っている以下の取り組みを更に拡充していく。尚、以下の取り組みについては、大学全般のグローバル化の推進という観点から列挙しており、一部 SGU 事業補助金での支弁対象となっていない案件・内容も含む。

## 1. 学内予算への内在化（自主財源の確保）

大学のグローバル化は、学校法人の重点案件として予算を重点的に配分している。2018 年度においては、海外プログラムを実施するための教職員の海外旅費、外国籍教員の採用、本学学生・交換留学生への海外留学奨学金などを中心に強化を図り、その金額は合計 428.6 百万円であった。

## 2. 寄付金等の活用

本学では大学関係者を中心に、広く一般から寄付金を募っている。中でも在校生の保護者（芝浦工業大学後援会）からの寄付金の一部を、大学の重点施策推進のために活用している。2018 年度は、海外に留学する学生への奨学金として 12 百万円、大学院生への海外学会参加等の支援金として 9 百万円、TOEIC 試験費用補助として 14.5 百万円、合計 35.5 百万円を大学のグローバル化推進のために活用した。

## 3. 競争的資金等の外部財源の獲得

本学では、従前より外部資金の獲得には積極的に取り組んでいる。以下代表的なグローバル化推進のための取り組みにおける 2018 年度の外部資金の獲得金額は、284.2 百万円であった。

- ・マレーシア日本高等教育プログラム（マレーシア政府プロジェクト）

- ・サウジアラビア留学生受入プログラム（サウジアラビア政府プロジェクト）
- ・Erasmus+（EUプロジェクト）
- ・イノベーティブアジア（JICAプロジェクト）
- ・ABE イニシアティブ（JICEプロジェクト）
- ・さくらサイエンスプログラム（JSTプログラム）
- ・海外留学支援制度（日本学生支援機構奨学金）
- ・トビタテ！留学 JAPAN（日本学生支援機構奨学金）

#### 4. 企業から資金の獲得

本学が主催する産学官連携グローバルPBLプログラムにつき、企業から開催のための費用の一部を提供いただいている。今後、拡充に努めていく。

2018年度実績：0.8百万円

#### 5. 有料留学生受入プログラムの拡充

サマースクールなどの短期の留学生受入プログラムを有料で実施し、また Semester 単位の留学プログラム（授業履修・研究室配属）については、協定校以外からは授業料等を徴収している。

- ・短期留学生受入プログラム（サマースクール等）

2018年度：21件実施、14百万円

- ・Semester 単位授業履修プログラム・研究室配属プログラム

受け入れ審査料、受け入れ手数料、授業料を徴収。協定校の学生は、全学免除としている。

2018年度実績：2.9百万円

以上、2018年度においては、大学のグローバル化推進のための財源として、SGU 事業補助金含め約 817.1 百万円（SGU 事業補助金が占める割合：約 6.3%）を確保した。

<b>② 取組内容の年度別実施計画【2ページ以内】</b>
<p><b>【2019年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自主財源で、490百万円の確保に努める。</li><li>・主に海外に留学する学生の奨学金および学生の英語力測定費用として、芝浦工業大学後援会等に協力を求め寄付金37百万円の確保に努める。</li><li>・競争的資金等の外部財源の獲得において、Erasmus+プログラムなど既に獲得実績のあるものの強化を図るなどして、300百万円の確保を目標とする。その他、世界展開力事業（文部科学省）等新規の外部資金の採択に努める。</li><li>・GTI コンソーシアムで実施するグローバルPBLにおいて、企業からのプログラム支援費として1百万円の確保に努める。</li><li>・サマープログラムなど、有料のプログラムを拡充し、18百万円の確保に努める。</li><li>・以上、合計で846百万円のSGU補助金以外のグローバル化推進費用の獲得に努める。</li></ul>
<p><b>【2020年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自主財源で、559百万円の確保に努める。</li><li>・主に海外に留学する学生の奨学金および学生の英語力測定費用として、芝浦工業大学後援会等に協力を求め寄付金39百万円の確保に努める。</li><li>・競争的資金等の外部財源の獲得において、Erasmus+プログラムなど既に獲得実績のあるものの強化を図るなどして、315百万円の確保を目標とする。その他、世界展開力事業（文部科学省）等新規の外部資金の採択に努める。</li><li>・GTI コンソーシアムで実施するグローバルPBLにおいて、企業からのプログラム支援費として1.5百万円の確保に努める。</li><li>・サマープログラムなど、有料のプログラムを拡充し、20百万円の確保に努める。</li><li>・以上、合計で934.5百万円のSGU補助金以外のグローバル化推進費用の獲得に努める。</li></ul>
<p><b>【2021年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自主財源で、628百万円の確保に努める。</li><li>・主に海外に留学する学生の奨学金および学生の英語力測定費用として、芝浦工業大学後援会等に協力を求め寄付金41百万円の確保に努める。</li><li>・競争的資金等の外部財源の獲得において、Erasmus+プログラムなど既に獲得実績のあるものの強化を図るなどして、330百万円の確保を目標とする。その他、世界展開力事業（文部科学省）等新規の外部資金の採択に努める。</li><li>・GTI コンソーシアムで実施するグローバルPBLにおいて、企業からのプログラム支援費として2百万円の確保に努める。</li></ul>

<ul style="list-style-type: none"><li>・サマープログラムなど、有料のプログラムを拡充し、22百万円の確保に努める。</li><li>・以上、合計で1,023百万円のSGU補助金以外のグローバル化推進費用の獲得に努める。</li></ul>
<p><b>【2022年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自主財源で、698百万円の確保に努める。</li><li>・主に海外に留学する学生の奨学金および学生の英語力測定費用として、芝浦工業大学後援会等に協力を求め寄付金43百万円の確保に努める。</li><li>・競争的資金等の外部財源の獲得において、Erasmus+プログラムなど既に獲得実績のあるものの強化を図るなどして、347百万円の確保を目標とする。その他、世界展開力事業（文部科学省）等新規の外部資金の採択に努める。</li><li>・GTIコンソーシアムで実施するグローバルPBLにおいて、企業からのプログラム支援費として2.5百万円の確保に努める。</li><li>・サマープログラムなど、有料のプログラムを拡充し、24百万円の確保に努める。</li><li>・以上、合計で1,114.5百万円のSGU補助金以外のグローバル化推進費用の獲得に努める。</li></ul>
<p><b>【2023年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自主財源で、764百万円の確保に努める。</li><li>・主に海外に留学する学生の奨学金および学生の英語力測定費用として、芝浦工業大学後援会等に協力を求め寄付金45百万円の確保に努める。</li><li>・競争的資金等の外部財源の獲得において、Erasmus+プログラムなど既に獲得実績のあるものの強化を図るなどして、365百万円の確保を目標とする。その他、世界展開力事業（文部科学省）等新規の外部資金の採択に努める。</li><li>・GTIコンソーシアムで実施するグローバルPBLにおいて、企業からのプログラム支援費として3百万円の確保に努める。</li><li>・サマープログラムなど、有料のプログラムを拡充し、26百万円の確保に努める。</li><li>・以上、合計で1,203百万円のSGU補助金以外のグローバル化推進費用の獲得に努める。</li></ul>
<p><b>【2024年度以降】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・2024年度以降も2023年度までの取り組みを踏襲し、毎年5～10%の比率でグローバル化推進のための費用が増額となるよう努めていく。</li></ul>

## 様式2

## 資金計画

事業対象経費(単位:千円) ※千円未満は切り捨て						
年度(西暦)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
補助事業経費の総額	30,015	143,633	163,820	146,049	161,563	
内訳	補助金の金額(※1)	30,000	90,166	82,285	83,182	51,135
	自己収入その他の金額	15	53,467	81,535	62,867	110,428

年度(西暦)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
補助事業経費の総額	115,721	154,000	161,700	169,785	178,274	
内訳	補助金の額(※1)	43,465	39,119	35,207	31,686	28,517
	自己収入その他の金額	72,256	114,882	126,493	138,099	149,757

年度(西暦)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
補助事業経費以外の支出予定額	734,970	819,608	896,607	976,261	1,054,063

(※1)2014年度から2018年度までの「補助金の金額」は交付決定額(変更後)ベースで実績を記載すること。(但し、2019年度は当初交付決定額ベース。)2020年度以降の補助金の額は便宜的に2019年度の額を毎年10%減じた額を記入すること。実際の補助金の額とは異なる。

(※2)文部科学省や他省庁が実施する他の補助金(公募要領P11参照)は「自己収入その他の金額」に計上しないこと。

(※3)国立大学における運営費交付金、公立大学における運営費交付金等、私立大学の私立大学経常費補助金等は「自己収入その他の金額」に計上しないこと。

(※4)「補助事業経費以外の支出予定額」については、2019年～2023年において、事業対象経費ではないが、本事業(SGU)に関連して支出する予定の額を計上すること。例えば、大学独自で実施する取組として、運営費交付金に内在化した金額(公立大学の場合は運営費交付金等、私立大学の場合は私立大学経常費補助金等)や文部科学省が実施する他の補助金事業のうち、本事業の自走化に関する金額は、この欄に記入すること。

## 1. 取組状況

財政支援期間終了後について【4ページ以内】	
財政支援期間終了後の事業展開（構想調書からの転載）	財政支援期間終了後の事業展開に向けた資金計画
<p>本事業は原則すべての業務について、財務支援期間終了後も本学の予算にて継続実施する。</p> <p>本学の学費等の財源を本事業終了後にそのまま予算措置することは容易なことではないが、本事業を継続することで、学生をはじめ教職員、ひいては校友会、後援会等のステークホルダーに対して、より多くの利益等をもたらすことの合意形成が必要である。ステークホルダーに可能な限り事業の目的や実施状況、継続する意味等を説明し、理解を得るよう努力する。</p> <p>また、校友会や後援会に周年事業等の寄付や企業からの援助についても模索する。本学では以前より留学生の受け入れのための奨学金制度を企業対象に構築した経験があり、その援助体制を再構築し本事業継続の原資になるよう努める。</p> <p>財政支援終了後の具体的な取組については以下の通りである。</p> <p>(1) 職員人事関連： 職員の高度化への取組、職員の海外研修制度、外国人職員の採用、女性職員の待遇改善、 →本学予算で継続実施</p> <p>(2) 教員人事関連： 女性教員の採用・待遇改善、外国人教員の採用、テニュアトラック制度、教員の海外留学制度の促進、年棒制度→本学予算で継続実施</p> <p>(3) 教育の質の保証： ナンバリング、GPAの導入、転部・転科・Late Specialization、授業の英語化、ジョイントディグリー(JD)・ダブルディグリー(DD)の実施、英語のみで卒業できるコースの設置、5年一貫教育制度の検討→本学予算で継続実施</p> <p>(4) 入試改革関連： 入試の多様化（TOEFLスコアによる英語力の評価、国際バカロレアの導入など）、渡日前入試の実施、留学生特別入試の見直し→本学予算で継続実施</p> <p>(5) 国際推進関連：</p>	<p><b>【これまでの取組状況】</b></p> <p>本学では、事業採択当初から、補助金で賄いきれない大学のグローバル化に関する経費につき、理事会による「大学のグローバル化推進のために必要な案件については優先的に資源配分を行なう」という機関決定の下、大学の自己資金およびその他の外部資金を活用して、大学のグローバル化を推進してきた。その額は、既にSGU事業補助金（2018年度：51.1百万円）を大きく上回っており、自走化に向けた体制・財務構造が出来上がっているといえる。今後も創立100周年を迎える2027年に向かって、学校法人を挙げてグローバル化を推進するという方針は確認されており、これまで以下(1)～(5)の取り組みを実施してきた。</p> <p>(1) 学内予算への内在化（自主財源の確保） (2) 寄付金等の活用 (3) 競争的資金等の外部財源の獲得 (4) 企業から資金の獲得 (5) 有料留学生受入プログラムの拡充</p> <p>これらの取り組みの結果、2018年度においては、グローバル化推進のための財源として、SGU補助金含め約808.1百万円（SGU補助金が占める割合：約6.3%）を確保した。</p> <p><b>【これまでの取組における課題】</b></p> <p>理事会による法人のグローバル化の推進を改革の重点分野に位置づけるという決定の下、グローバル化推進のための資金は総じて順調に確保できていると言える。</p> <p>今後更なる展開を図るためには、自主財源の確保もさることながら、競争的資金等の外部財源のより一層の獲得が課題となる。特にEUにてErasmus+プログラムの成功を受け規模を拡大して開始される後継プログラムへの参画や、私立大学が苦戦している世界展開力事業への採択を目指す。</p>

協定校の新規開拓・メンテナンス、海外拠点の設置や運営・管理、国際学生寮の充実、外国人OB組織の構築との活用、留学生の増員、日本人学生の派遣、海外インターンシップ、グローバルPBL等の派遣プログラムの開拓・実施→本学予算で継続実施

(6) 広報関連：

IRの活用、HP等による情報発信の強化、海外等の情報交流→継続実施

(7) UGA (University Global Administrator) →本学予算で雇用確保し継続実施

(8) サテライトオフィスの設置→設置後の現地雇用の確保等について本学の予算で継続実施

(9) その他

本学が目指すスーパーグローバル大学事業に関する新たな展開についても必要に応じて本学予算等で実施する。

#### 【今後の展望】(自走化に向けた具体的取組)

以下、個々の具体的な取り組みを進め、全体として毎年5～10%のグローバル化推進のための財源の増額に努めていく。

(1) 学内予算への内在化(自主財源の確保)

グローバル化推進のための自主財源の確保を更に推し進め、毎年5～10%の増額に努める。

(2) 寄付金等の活用

主に海外に留学する学生の奨学金および学生の英語力測定費用として、芝浦工業大学後援会等に働きかけ、グローバル化推進のための寄付金が毎年2百万円ずつ増額となるように努めていく。

(3) 競争的資金等の外部財源の獲得

競争的資金等の外部財源の獲得において、既に獲得実績のあるものの強化を図るなどして、毎年5%程度の増額を目標としていく。特に欧州の協定校に働きかけ、Erasmus+プログラムおよびその後継プログラムにおける拡充を図る。その他、世界展開力事業(文部科学省)等新規の外部競争的資金の採択に努める。

(4) 企業から資金の獲得

産学官連携型グローバルPBLにおいて、企業からのプログラム支援費として毎年0.5百万円ずつ増額となるように努めていく。

(5) 有料留学生受入プログラムの拡充

サマープログラムなど、有料のプログラムを拡充し、毎年2百万円ずつ増額となるように努めていく。